



愛する人を 看取るということ ～あるがままに生きる～

司会 大河内信弘（筑波大学附属病院副病院長）

お話 鮫島純子さん

今や2人に1人が、がんと闘う時代。

医療の進化にともない、様々ながん医療が受けられます。

—そんな中、手術をせず、自宅で最期をむかえることを選択した夫。

愛する人のその選択を支え、最期を看取った妻。—

鮫島純子さんの体験談をお話しいたします。

日時：平成22年3月6日（土）

14:00-16:00（13:30開場）

会場：つくば国際会議場 101大会議室

対象：一般（定員120名）

参加費
無料

鮫島純子 さめじますみこ

大正11年（1922年）、東京都生まれ。
祖父は、近代日本の資本主義の父といわれる渋沢栄一。昭和17年に鮫島員重氏と結婚、三男を授かる。
平成11年、夫の希望により、食道がんの夫を手術を受けず、亡くなるまで自宅介護を行う。著書に、『あのあるころ、今、これから…』『毎日が、いきいき、すこやか』『忘れなくて季節のしきたり日本の心』『子育て、よかったこと、残したいこと』（以上、小学館）などがある。

■お申し込み方法

どなたでもご参加いただけますが、事前申込が必要です。
「氏名」「連絡先」をご記入の上、FAXかE-Mailでお申し込みください。
お電話でのお申し込みも受け付けております。
※先着順。定員になり次第、締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

■申し込み・問い合わせ先

筑波大学附属病院総合がん診療センター（平井）
〒305-8576 つくば市天久保2-1-1
TEL:029-853-8096/FAX:029-853-3404
E-Mail:ccc@un.tsukuba.ac.jp